

## 【全体概要】

2018年2月に策定された、超長期ビジョンと長期戦略からなる将来構想 Kwansei Grand Challenge 2039は、時を移さず中期総合経営計画の策定に入りました。大学執行部（大学全体）および各学校が具体的な実施計画の作成を行い、2019年度から実施段階へ移るとともに、大学執行部の実施計画を受けた、大学における各学部・研究科は2019年度に実施計画の作成を行いました。

2019年度の主な実績を以下に記しますとともに、各実施計画の詳細な進捗について、長期戦略テーマ別にまとめて記します。

- ・ 協定等に基づく日本人学生の留学派遣数1,833人が日本一（JASSO公表、2018年度実績値）になるとともに、外国人留学生の受入人数1,477人も設定目標値1,200人をクリアしており、計画通りSGU事業を進めていることで、本学の国際化が着実に進展しています。
- ・ 大学卒業時に学生が身に付けるべき知識・能力・資質の10項目を「Kwansei コンピテンシー」を策定しました。今後、入学時と卒業時における自己判断調査による伸びを測るなどして、「学生の質の保証」を評価するとともに、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づく教学マネジメントの質を高めます。
- ・ 卒業後56年目まで調査を拡大し、本学の卒業生が「真に豊かな人生」を送られているか、大学教育の効果分析・評価を行います。
- ・ 神戸三田キャンパス2学部体制を5学部体制へ再編すべく、設置申請届の作成や改修工事計画の策定等を進めます。
- ・ 幼稚園、初等部、中学部、高等部、千里国際高中等部、大阪インターナショナル、短期大学において、2019年度から2021年度の3年間に取り組む中期計画を策定し、課題解決に向けた歩みを進めます。
- ・ 高等部が文部科学省指定「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」における拠点校として2019年度に採択されました。「"AI活用 for SDGs"-地球と人類に貢献する平和構築のための学び」と題し、Society5.0を牽引するイノベーティブなグローバル人材を育成します。
- ・ 世界をよりよいものへ変革するための国際目標であるSDGsへ貢献すべく、「関西学院大学SDGs宣言」を行い、包括的総合的に推進します。

## 【長期戦略テーマ別概要】

### （学士課程教育）

#### <在籍時の学修成果の把握・評価>

長期戦略の主たる目標でもある「学修成果の修得」は、一般的な学位単位での学修成果に加え、留学等の付加的な正課プログラムや正課外教育も含めた広義な教育としても学修成果が修得されると定義している。「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」として10のコンピテンシ

一をまとめた『Kwansei コンピテンシー』を 2018 年度に定め、入学時と卒業時との比較が可能となるよう調査内容を改訂した。

#### <教育の長期的成果の検証>

卒業後 56 年目まで調査を広げ、「質の高い就労」を実現した在学時の学び等と「真に豊かな人生」との関連性を IR による分析にて進めている。また、企業説明会や個別面談などの従来のキャリア支援だけではなく、新たに起業をめざす「アントレプレナー養成」にも力をいれており、IPO 法人を立ち上げる卒業生も輩出している。

#### <カリキュラムの基本構造の改革>

2018 年度に策定した『Kwansei コンピテンシー』を身に付ける基盤教育の確立をめざしている。スーパーグローバル大学創成支援事業（以下、SGU 事業）にて定めた『ダブルチャレンジ制度（入学した学部等での学びに加え、留学等インターナショナルや他分野を学ぶ副専攻、実社会を経験するハンズオン・ラーニング・プログラム）』を進めるとともに、Society5.0 時代に対応すべく、文理を問わない AI 活用人材育成プログラムや PBL 型のキャリア教育科目を充実することで、全ての関学生が学部の区別なく共通して身に付けられるようカリキュラム体系の随時改正を行っている。

#### <教育分野の再編>

教育分野の大きな再編として、2021 年 4 月からの神戸三田キャンパスにおける理系新設 4 学部（理・工・生命環境・建築学部）と総合政策学部の再編に向けた、教育体制の再構築やカリキュラム改正を行うと共に、文部科学省への設置届出申請書類の作成と送付など必要となる手続きを行った。加えて、受験生へのアプローチを強化して入試広報の実施とその体制強化を進めていくことで、「知の拠点」とするべく本学の魅力を高めていく。

#### <国際化の推進>

SGU 事業により、2023 年度まで構想で定めた目標（協定校への派遣 2,500 人/年、受入 1,500 人/年等）に向かって着実に大学全体の国際化を推し進めている。2019 年度は、派遣 1,845 人・受入 1,447 人であり、目標値をクリアしている。

#### <国連等との連携強化>

大学院における副専攻プログラムとしての「国連外交コース」および学部における「国連・外交プログラム」を推進していくことによって、国際公共分野で人類の課題に挑むグローバルリーダーの輩出を目的としている。2019 年度末現在、「国連外交コース」修了者は 14 名であり、開設 3 年次である「国連・外交プログラム」の修了者は早期卒業の 1 名である。

#### <正課外教育の推進>

汎用的な能力や価値観等は正課教育だけでなく、スポーツ・文化・芸術活動など様々な活動によって涵養される正課外教育として位置づけている。2019 年度は、スポーツ活動をより安心・安全に支援するため「スポーツ振興・統括課」を新設し、学業成績不良者は試合出場を認めない Academic Eligibility 制度の厳格な運用と修学支援プログラムを実施した。

#### <教員個人・組織の教育力向上>

学修成果検証など高等教育界の変化に対応するために教員個人や教員組織としての継続的な教育力向上を図る。2019 年度は、新任教員研修をはじめとする FD 研修の充実とさらなる改良案の検討やシラバスの第三者チェック等を実施した。

#### <ICT による教育・学修支援>

人と人との直接的なコミュニケーションを重視し、キャンパスでの対面授業を基本としつつも、同時に ICT を補助的な機能として最大限活用し、学生の学びをより効果的な学びへと結びつけるために、授業支援ツール等の構築を継続して実施している。

### <対面的なコミュニケーションの促進>

教育の ICT 化や AI の発達が急速に進む時代にこそ、直接的なコミュニケーションの価値が高まることから、全てのキャンパスにおいて学生・教職員が互いに交流可能な仕組みや場所の整備を促進させている。中でも、既存の大学図書館やラーニングコモンズなど学生同士が交流する空間として捉え、『学生の主体的な学修』を支援している。

### <学修支援の充実>

より効果的な学修成果の修得をめざし、文章表現力を身に付けさせるため、スタッフから指導や助言、添削等を受けられる「ライティングセンター」設置構想や学修相談を行うアカデミックアドバイザー制度、TA・LA を一層有効に活用して、授業での教育支援を強化する仕組みを再構築する。2019 年度は、アカデミックライティング科目の開校準備やアカデミックアドバイザー制度の充実策に取り組んだ。

### <学生生活支援の充実(寮)>

日本人学生と外国人留学生の混住型国際教育寮における共同生活を通じ、国際理解教育を進めている。2019 年度は、西宮聖和キャンパス横に部屋数 80 室の国際教育寮の建設を承認し、2021 年秋供用開始に向け、配備すべき施設・設備の検討を進めている。

### <受入段階での多様性と学力の担保>

思考力・判断力・表現力を一層重視した「大学入学共通テスト」の実施を前に、本学において、すべての入試において「学力 3 要素」を評価する仕組みを導入するとともに、「英語 4 技能」やり多面的な選抜方法への転換を中心に改革を行った。しかしながら、文部科学省の方針転換に伴い、実際には一部の入試以外は新しい方式での実施が困難な状況である。

## (大学院教育)

### <研究者の輩出>

研究者輩出をめざした大学院生の裾野拡大のため、リニューアルさせた大学院案内誌の発行や大学院ウィークの継続実施に加え、大学院進学から研究者になるまでのキャリアパスを示すべく、制度を設計中である。また、将来その 90%以上が研究者となる日本学術振興会特別研究員の採用者数増加のための施策を検討している。

### <理系研究室の充実>

理系研究室の充実を図るため、大学院科目の先取り履修制度を立案し、2020 年度より導入する予定である。また、博士課程前期課程修了者が希望する研究開発職へ就職できるよう、企業との連携を深めている。

### <高度職業人の養成>

企業の人材ニーズと文系の大学院教育とのチューニングプロジェクト立案のため、経済団体と本学との研究プロジェクトを立ち上げた。その研究プロジェクトが全国の企業を対象として、ニーズ調査を行う予定である。

## (総合学園と一貫教育)

### <特長ある一貫教育の創出>

「キリスト教主義に基づく全人教育」を行うことで、自身の周辺に対して、より良い影響を与えることができる人材を輩出することをめざし、短大・各学校それぞれの中期計画を策定し、推進している。また、高等部が文部科学省指定「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」における拠点校に採択された（2019年度から2021年度の3年間）。「AI活用 for SDGs―地球と人類に貢献する平和構築のための学び」と題し、Society5.0を牽引するイノベーターなグローバル人材を育成する。

## （研究）

### ＜個別研究の活性化＞

URA や産官学コーディネーターによる科研費等外部資金獲得の支援を行うことで、個別研究の活性化に取り組んでいる。加えて、外部資金獲得者への支援充実についても検討しており、大学全体としての研究力アップに努めている。URAらが緻密に研究力を分析することで最適な支援・助成を行うことをめざしている。

### ＜研究ブランドの確立＞

大学としての研究ブランド確立のために「研究創発センター」を設置し、大学として定めた研究プロジェクトに資源投入等を行うことで、プロジェクトの推進と大型化をめざしている。また、資源投入を受けた研究プロジェクトに対して、効果検証・成果評価を行うべく、ツールの検討や研究広報発信体制なども整えている。

## （産官学連携）

### ＜KSCでのイノベーション推進＞

2021年4月KSC新設4学部に伴い、コンセプト「Be a Borderless Innovator」を定めるとともに、スノーピークとの連携協定「Camping Campus」などキャンパス環境の整備に取り組んでいる。

## （学校経営）

### ＜新規事業の財源確保＞

財務・業務改革本部が中心となって進めている。2022年度までに実現すべき収入増加・支出削減額を定めており、収入増加については学費改定を中心にクリアしたが、支出削減については、具体策を含めて引き続き検討していく必要がある。

### ＜学生規模＞

魅力的な教育プログラムを新設し、ST比の改善（教員体制の増強）を行うと共に学費改定もセットで行う総合的な施策「学部教育改革施策」を策定した。公募の結果、法学部の案が採択され、2021年度カリキュラム改編に向けて準備を進めている。

### ＜（職員）人事政策の確立＞

行動指針となる Value & Attitude の全学的な検討と策定、経営を担う職員人事制度における職務定義、職員人事制度、研修制度等の検討が進められている。加えて、海外修士学位取得研修制度を新

設し、SGU 事業推進における高度専門職員の充実を図った。

#### <施設建設・設備整備計画>

建て詰まっている西宮上ヶ原キャンパスにおいて、安全な学生の動線確保と教育研究環境の改善をめざし、建設・改修工事を計画通り進めており、2019 年度は大学院 2 号館改修工事と仁川五ヶ山建設工事を行った。また、SGU 事業に係る西宮上ヶ原の国際教育寮建設工事や、KSC の再編活性化にあわせ、Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ号館改修工事計画を立案した。

#### <革新的な情報環境の構築>

経営資源の 1 つとして「情報化」を捉えた情報化計画（2019-2027）を定め、実施計画の立案・検討を行った。中でも、2021 年度にカットオーバーする新ポータルシステムの構築に注力して取組むと共に、「情報化」を司る組織の立案を検討している。

#### <Evidence-based Management の推進>

本将来構想 Kwansai Grand Challenge 2039 の成果を測る KGI・KPI ダッシュボードにおいて、2019 年度版として各データの更新を行うとともに、大学の各学部・研究科独自の KPI を制定することで、マネジメントの質向上をめざしている。また、学生番号をキーとして、高等教育推進センターが実施する各種調査の結果を IR データベースに取り込むことで、学生一人ひとりの学修経過とその成果とが追跡可能となった。

#### <二つの PDCA サイクルの統合>

学院総合企画会議の下に「内部質保証部会」を設置し、第 3 期認証評価受審の検討を中心に開催した。特に、学部・研究科においては「中期計画総括シート」を、短大・各学校においては「中期計画」を作成することで、自己点検・評価／学校評価を 1 つの PDCA サイクルに統合し、効率的・効果的なマネジメントに取り組んだ。

#### <卒業生との連携>

地域貢献の 1 つを主眼とした「K.G.ライフスクール」を西宮北口キャンパスなども活用しながら開設している。また、本学同窓生向けとなる「三日月塾」等は、管理部署を東京丸の内キャンパスや学長室に変更することで、より大学執行部からの連携を強化した。全体として、同窓生をステークホルダーの 1 つとして捉え、さらなる連携強化のために、既存システムから新たなプラットフォームへの構築を検討する。

#### <SDGs の推進>

SDGs に取り組む大学として、「関西学院大学 SDGs 宣言」を行うとともに、国連大学 SDG 大学プラットフォームに参加するなどして、ブランド向上に寄与している。フェーズの区切りに関係なく永続的に実施可能な体制を構築する必要がある。

以上